

香川生物 (Kagawa Seibutu) (30) : 1-3, 2003

芸予諸島の小哺乳類 (2)

川 口 敏

〒769-2102 香川県さぬき市志度鴨庄994-6

法 専 真

〒729-2402 広島県豊田郡安芸津町三津1398

Small Mammals on Geiyo Islands in the Inland Sea (2)

Satoshi Kawaguchi, 994-6, Kamoshō, Sanuki, Kagawa, 769-2102, Japan

Makoto Hosen, 1398, Mitu, Akitu-cho, Toyota-gun, Hiroshima, 729-2402, Japan

今回、著者らは、瀬戸内海西部にある芸予諸島のうち、大芝島、下蒲刈島、上蒲刈島、豊島、大崎下島、平羅島、中ノ島、岡村島の8島において、小哺乳類の捕獲調査を行ったのでその結果を報告する。

大芝島、下蒲刈島、上蒲刈島の3島は橋を通じて本州(広島県)と結ばれている(図1)。豊島、大崎下島、平羅島、中ノ島、岡村島の5島は、本州と隔離されているが、お互いに橋で結ばれている(図1)。これら8島はいずれも斜面が多く平坦なところが少ない。島の斜面は果樹園(主にミカン栽培)として利用されていることが多く、自然林や二次林は少ない。

これら8島それぞれの面積は、日外アソシエーツ株式会社編(1991)にしたがった(表1)。また、最高標高は国土地理院発行の2万5千分の1の地図から読み取った(表1)。

調査期間は、2002年3月27~29日(大芝島、下蒲刈島、上蒲刈島)と、2002年11月1~3日(豊島、大崎下島、平羅島、中ノ島、岡村島)である。

各島において広葉樹林内、針葉樹植林内、竹林内、雑草地、休耕田や放棄田の石垣にドッグ

フードのジャーキーをえさに用いたパンチュートラップを設置してネズミ類を捕獲した。また、モグラのトンネルが発見されたところでは筒罟を設置してモグラ類を捕獲した。捕獲した小哺乳類の外部計測を行い、生殖器官を調べて性別を判別し(メスについては繁殖状態を調べた)、骨格標本を作成した。また、モグラについては頭骨全長も計測した。

この結果、捕獲されたネズミ類は、アカネズミ *Apodemus speciosus* のみであった。アカネズミは、大芝島の放棄果樹園に隣接するツバキ林床で2頭、下蒲刈島のヒノキ植林内で1頭、上蒲刈島の放棄田の石垣で2頭、岡村島の果樹園に隣接する広葉樹林内で1頭それぞれ捕獲された(図1、表2)。しかし、豊島、大崎下島、平羅島、中ノ島では捕獲されなかった。島ごとの捕獲率は、0~7%であった。2頭の雌(標本番号2094、2101)に胎児が認められた(表2)。

モグラの坑道は上蒲刈島にだけ認められ、コウベモグラ *Mogera wogura* が、放棄田で1頭、休耕田で1頭それぞれ捕獲された(図1、表2)。雌(標本番号2100)に胎児が認められた(表2)。

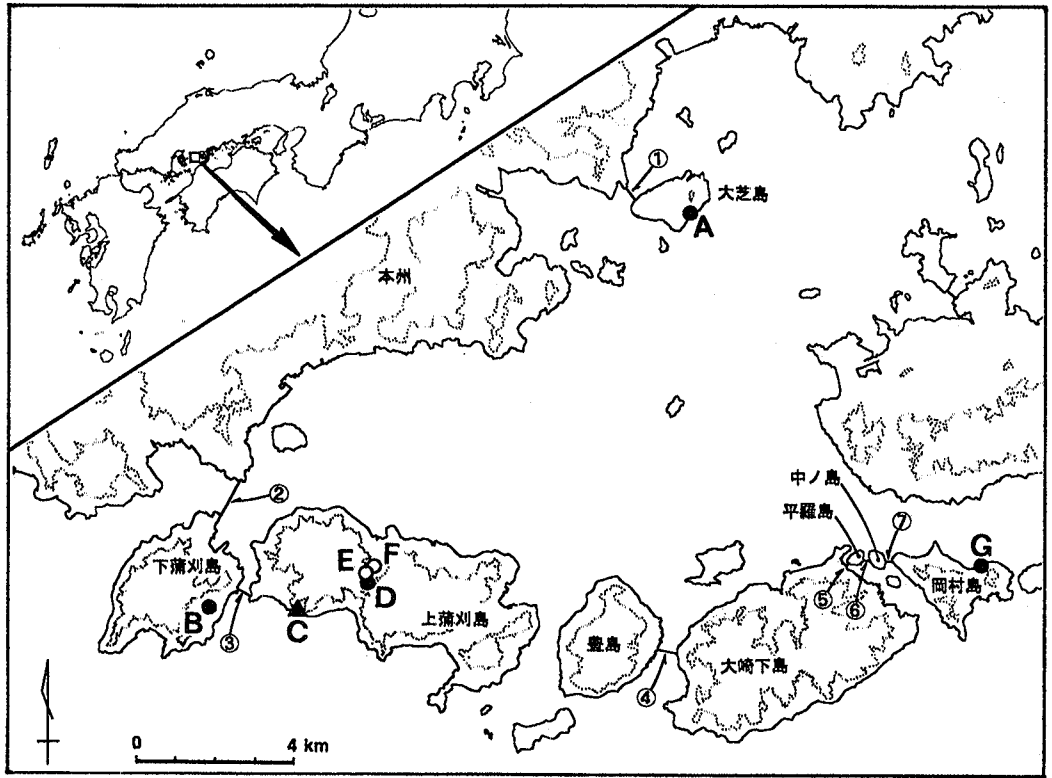


図1. 哺乳類の採集地点と島嶼を結ぶ橋梁。

●アカネズミ *Apodemus speciosus*, ○コウベモグラ *Mogera wogura*, ▲タヌキ *Nyctereutes procyonoides*.
 ①大芝大橋; ②安芸灘大橋, ③蒲刈大橋, ④豊浜大橋, ⑤平羅橋, ⑥中の瀬戸大橋, ⑦岡村大橋.
 点線は標高100mの等高線である。

表1. 哺乳類の採集結果. TNは罠数(トラップナイト).
 -はモグラの坑道が見られなかったことを示す。

島名	面積 [km ²]	最高標高 [m]	アカネズミ		コウベモグラ	
			♂	♀ (TN)	♂	♀ (TN)
上蒲刈島	19.07	457	1	1 (70)	1	1 (25)
大崎下島	17.57	449	0	0 (160)	-	-
下蒲刈島	7.3	275	1	0 (75)	-	-
豊島	5.45	317	0	0 (160)	-	-
岡村島	2.95	213	0	1 (80)	-	-
大芝島	1.7	109	1	1 (30)	-	-
中ノ島	0.18	91	0	0 (40)	-	-
平羅島	0.15	77	0	0 (40)	-	-

表2. 採集された哺乳類の外部計測値と胎児数. Mw, コウベモグラ; As, アカネズミ; Ny, タヌキ. 地点の記号は図1中の記号に対応する. 採集年はすべて2002年.

標本番号	種	地点	最終日 月/日	性別	体重 [g]	頭胴長 [mm]	尾長 [mm]	後足長 [mm]	前足長 [mm]	頭骨全長 [mm]	胎児数 右+左
2099	Mw	E	3/29	♂	110.32	165.4	23.9	19.8	19.4	39.2	—
2100	Mw	F	3/29	♀	80.47	151.3	19.5	19.3	18.6	37.5	3+2
2094	As	A	3/28	♀	48.38	122.2	75.3+ α	23.2	—	—	1+4
2095	As	A	3/28	♂	27.84	108.6	91.6	24.8	—	—	—
2096	As	B	3/29	♂	32.69	108.6	99.4	24.7	—	—	—
2097	As	D	3/29	♀	41.64	96.6	96.4	23.8	—	—	—
2098	As	D	3/29	♂	40.17	120.2	41.0+ α	24.2	—	—	—
2101	As	G	11/2	♀	49.34	113.1	109.6	25.0	—	—	5+0
1194	Ny	C	3/29	♂	—	593	171	110	—	—	—

2)。

また、2002年3月29日、調査地を移動中に、上蒲刈島の路上でタヌキ *Nyctereutes procyonoides* の磔死体を発見し採集した(図1, 表2)。

著者の知るかぎり、これら8島における小哺乳類の捕獲調査の報告はない。よって、今回捕獲されたアカネズミとコウベモグラの分布はいずれも初記録である。

これまでにアカネズミが捕獲された島の中で、著者の知るかぎり、今回調査した大芝島の面積は最小である。しかしながら、豊島と大崎下島は、その大芝島より面積が大きいかかわらず(表1)、アカネズミは捕獲されなかった。また、アカネズミが捕獲された島嶼においてもその捕獲率は比較的低い(7%以下)。捕獲率が低くなるのは、採集努力が同じであると仮定すれば、アカネズミの活動量が小さいためか、その密度が低いためである。活動量は一般

に繁殖期に大きくなる。3月28日に採集した雌(標本番号2094)と11月2日に採集した雌(2101)に胎児が認められるので(表2)、採集期間は繁殖期に当たっており、アカネズミの活動量は大きいと推測される。したがって、捕獲率が低いのは、アカネズミの密度が低いことを示唆している。アカネズミの密度が低い原因として、島の大部分が果樹園として利用されていることが挙げられる。果樹園では、下生えが刈り取られて開けている。著者の経験では、アカネズミがこのような開けた場所で捕獲されたことはない。おそらく、果樹園(放棄されたものを除く)はアカネズミが利用できない環境の1つであろう。

引用文献

日外アソシエーツ株式会社編. 1991. 島嶼大事典. 日外アソシエーツ株式会社, 東京.